

令和8年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立瓜破東小学校

令和8年4月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査の結果分析において、学力向上の課題として「基礎・基本的事項の理解と定着」「学習意欲の向上」「学習・生活習慣づくり」が挙げられる。また、学力と両輪で体力の向上も重要である。
- 安定した学校生活を過ごすために、その基盤となる健康的な生活(体力づくり、基本的な生活習慣の確立)を保護者(家庭)や地域と連携した取り組みを推進する。
- 集団生活を通して、特別活動を軸に「人間関係形成」「社会参画」「自己実現(いじめの克服)」に資質・能力を育み、学校全体のウェルビーイングを実現する。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88.0%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3.0ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3.0ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85.0%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の年間を通じて、1か月あたりの平均時間外勤務時間を月18時間以下を維持する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、92%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上にする。

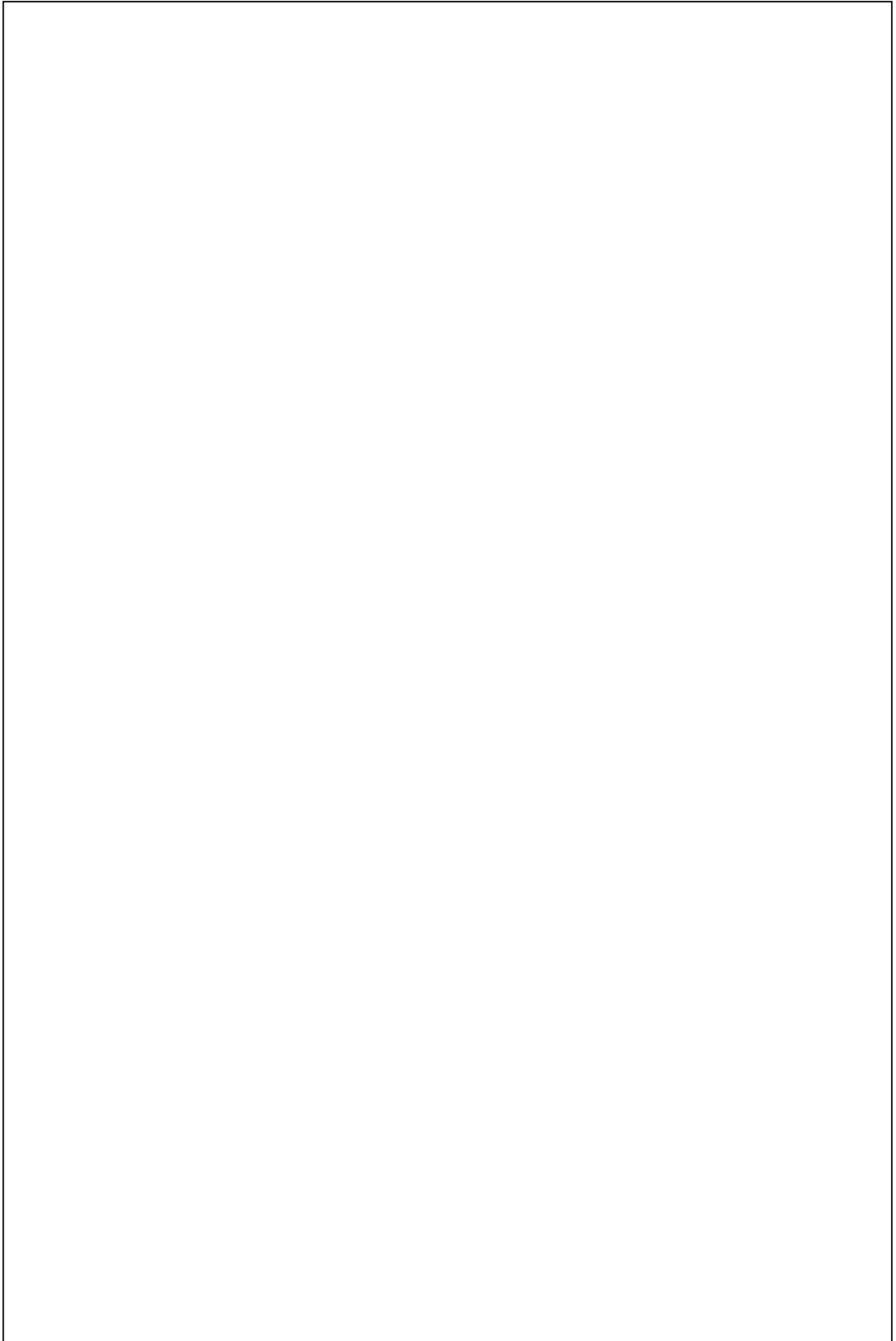
### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.0ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.0ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を57%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下を維持する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立瓜破東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、92%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.0%以上にする。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの問題について全教職員で考え、いじめをしない、させない児童を育てる。</p>                |      |
| <p>指標 いじめについて考える日およびいのちについて考える日に合わせて、学校長による講話や各学級でいじめにかかわる内容についての指導を年1回以上行う。</p>                  |      |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>決まりを守って安全に気持ちよく学習したり生活したりできるように「生活・学習の約束」を全教職員で指導する。</p> |      |
| <p>指標 「生活・学習の約束」のふり返りを、学校生活アンケートの中で学期に1回行い、結果を指導に役立てる。</p>  |      |
| <p>取組内容③【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年とのふれあい活動の工夫と充実を図っていくために、高学年をリーダーにした縦割り活動に積極的に取り組んでいく。</p>   |      |
| <p>指標 集会活動や学校行事などで、縦割り活動やペア学年活動を学期に1回以上行う。また、低・中・高学年での異学年交流を年1回以上行う。</p>                          |      |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度に向けての改善点

大阪市立瓜破東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1.0 ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1.0 ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>授業研究会や指導力向上のための研修会を年間計画に基づいて実施し、研究授業後の協議会や研修会での議論を活発に行う。また、伝達講習会を行い、各教職員が研修した内容を、他の教職員に広める機会を設ける。</p> <hr/> <p>指標 年間計画に基づいて、授業研究を実施し、協議会の形式を工夫しながら、指導力向上のための研修に取り組み、すべての教員が年1回以上、自主的に授業公開を行う。</p> |      |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業で体力づくりの運動に積極的に取り組むだけでなく、体育学習カードを活用したり、運動週間を実施したりして、児童の日々の運動に対する意識を高めていく。</p> <p>指標 学校生活アンケート「運動場で友だちと遊んだり、体を動かしたりすることができましたか」の項目について、「できた」・「だいたいできた」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p>                       |      |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度に向けての改善点

大阪市立瓜破東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を57%以上にする。</p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下を維持する。</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・学校生活アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】<br/>学年や実態に応じてICT機器を活用し、児童に分かりやすい授業を構築するとともに、児童が積極的にタブレットを活用できるようにする。</p> <p>指標 学習者用端末を活用した学習を平均で週3回実施することにより、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が50%以上になるようにする。</p>                               |      |
| <p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】<br/>「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、本校の教職員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下にする。</p> <p>指標 年次有給休暇を10日以上取得できるよう学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。また、「ゆとりの日」（ノー残業デー）を週に1回設定・実施する。</p> |      |
| <p>取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】<br/>児童が興味関心をもつことができるような読書環境を整え、読書活動を活性化させていく。</p> <p>指標 読書の木・ひらちゃん読書ノート・週2回以上の図書開放・読み聞かせなどの取り組みにより、児童の読書活動に対する興味関心を高め、小学校学力経年調査・学校生活アンケートの「読書は好きですか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、60%以上にする。</p>           |      |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度に向けての改善点

